



集落支援だより

みなさん、こんにちは！

地域おこし協力隊 集落支援担当の佐々木和代です。

今月の集落支援だよりでは、奥川で開催された「かたくり観賞会」と「堰上げ人足体験イベント」の様子をお届けします。



地域おこし協力隊 集落支援担当

ささき かずよ
佐々木 和代 隊員

4月から新体制になりました！

4月より、集落支援員に佐川勝美さんが着任しました。現在は主に奥川地区の集落訪問を、佐々木とともに担当しています。地域の皆さんとのつながりを大切にしながら活動していきますので、見かけた際にはぜひ気軽にお声がけください。



奥川の春を彩る かたくり鑑賞会



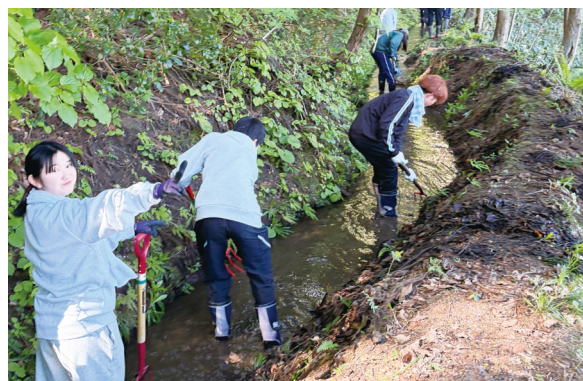
4月11日、奥川・小屋自治区にて「かたくり観賞会」が開催されました。本年は例年より雪が少なかった影響で開花が早まり、開催日も1週間早めて実施となりました。かたくりの花は、開花までに約7年を要するといわれています。長い冬を越え一斉に咲き誇る姿に、多くの人が魅了されました。

今では、群生地一面に広がる淡い紫色の景色は奥川の春を象徴する風景のひとつとなっています。当日は、朝から小雨が降っていましたが次第に晴れ間が見えると、かたくりの花もゆつくりと開いていきました。しつとりとした空気の中で咲くかたくりは一層趣があり、来場した皆さんは足を止めて見入ったり写真を撮影したりと奥川の春の風景を楽しんでいました。

春の堰上げ人足

4月25・26日に奥川地区で集落機能の維持につなげることを目的とした福島大学岩崎ゼミの学生らによる「堰上げ人足体験イベント」が開催されました。このイベントは、学生にとっては中山間地域集落の実態を体験しながら学べる貴重な機会であり、集落の皆さんにとっては人足の負担軽減や若い世代との交流を図ることが出来ます。

初日は、五ヶ村堰の見学や山菜採り体験が行われました。五ヶ村堰は、元禄時代から地域の人々によって守り受け継がれてきた歴史ある水路で、田んぼに水を届ける大切な役割を担っています。参加した学生たちは、その歴史や役割について学びながら奥川の暮らしと自然との深いつながりに触れていました。また、自分たちで採った山菜を天ぷらにして味わうなど地域の食文化にも親しみました。2日目の人足作業には、6つの集落に協力いただき、学



生18人を含む総勢36人が堰上げ作業に取り組みました。当日は天候にも恵まれ、学生たちは普段なかなか体験することのない作業に苦勞しながらも、住民の皆さんと協力し合う中で自然と会話が生まれ、交流を深めました。また、学生からは「自分が堰上げした場所に水が流れた時は感動した」「またぜひ参加したい」といった声も聞かれ、地域の魅力や人の温かさがしっかりと伝わる機会となりました。今後の継続的な交流にもつながることが期待されます。